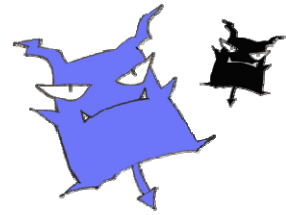


平成21年2月

京都市こどもの感染症



★☆☆ 去年の今ごろ、京都市で多かった感染症

順位	病気の名前	特徴、予防法など
1位	感染性胃腸炎	発熱、下痢、おう吐などが症状です。ノロウイルスが有名ですが、その他の色々なウイルスや細菌も原因となり、何回もかかってしまうことがあります。予防のため、手洗いや食品の十分な加熱などを心がけましょう。
2位	インフルエンザ	11月～2月に流行します。高熱、全身のけんたい感、筋肉痛など、風邪に比べて症状が激しく、特に乳幼児は重い症状や、合併症など起こしやすいので、気になる症状があれば、「いつもの風邪」と油断せず、早めに医療機関へ行きましょう。予防策としては、インフルエンザのワクチン接種のほか、手洗い・うがい・マスクをし、部屋の湿度を適切に保つ、休養、栄養を摂るなどの日々の対策も大切です。
3位	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	のどの痛みと発熱で始まり、赤い発疹が全身に広がります。3～4日すると、舌がいちごのように赤くなってぶつぶつになるいちご舌とよばれる症状が特徴で、4～5歳での感染が多くなっています。

★☆☆ 「新型インフルエンザ」をご存知ですか？ ☆☆☆

「新型インフルエンザ」は、これまで人類が経験したことがない、新たなインフルエンザウイルスによって引き起こされ、誰もが免疫を持っていないため、短期間で大流行するといわれています。

2003年以降、東南アジアを中心に、「強毒性の鳥インフルエンザH5N1」が鳥からヒトに感染する事例が広がっており、将来ヒトからヒトへ感染する「新型インフルエンザ」になるのではないかと危ぶまれています。

★ 今、すべきことは

☆普段から感染予防に心がけましょう

通常風邪やインフルエンザの予防方法が有効です。

帰宅時は、石けんで手洗い、うがいをしましょう。

咳がでるときは、マスクの着用や、ハンカチで口を覆うなど、他の人へ感染させないようにしましょう。（咳エチケット）

☆発生に備えて

不織布マスク（不織布（ふしょくふ）とは、繊維を織らずに絡み合わせたシート状のものをいう）を一人当たり25枚以上、解熱剤（アセトアミノフェンなど）、スポーツドリンクなど、2週間程度の食糧・水・日用品を備蓄しておきましょう。



★ 万一、発生したら

☆感染発生を知ったら

色々な情報が飛び交い、パニックがおこるかも知れません。うわさに振り回されないように、冷静になって、正しい情報を入手しましょう。

随時情報を発信…厚生労働省や京都市などのホームページ、テレビのニュースや新聞

また、健康危機管理に関する情報を配信する[京都市健康危機管理情報（みやこ安心・安全ねっと）](#)を、京都市のホームページから登録しておきましょう。

☆感染拡大を避けるために

不必要な外出は控えましょう。

☆感染の不安があれば

直接医療機関へ行くのではなく、まず、保健所に設置される「発熱相談センター」に、電話で相談しましょう。

